

グローバル市場で持続可能性を追求

国際事業の展開

創エネ・省エネの先進技術と資源循環の取り組みで
各国の風土・文化に配慮した住まいづくり、まちづくりを行っています

高品質住宅や先進の環境技術を、世界市場へ

当社は、これまで培ってきた工業化住宅の高い品質と環境技術を生かした住まいづくり、まちづくりを、世界市場で展開しています。当社の取り組みを理解し、共感している行政機関や現地のデベロッパー、ビルダーと連携を深め、グローバルに事業を推進。アメリカ、オーストラリア、中国、シンガポールなどを新たな市場として住宅供給を進めています。

アメリカ

環境配慮の基本理念に基づき、コミュニティづくりを実践



当社は米国にて、子会社である North America Sekisui House, LLCを設立。全米で20以上のコミュニティ開発プロジェクトを保有し、共同事業形式でパートナー企業とともに開発を進めています。

アメリカのマスタープラン型コミュニティには、住民の方の交流・情報発信拠点となるコミュニティ・センター施設がデベロッパーにより建設され、住民の自治組織により管理運営されることが一般的です。新たにグランドオープンを迎えたプロジェクトにおいて、かかるコミュニティ・センター施設を現地の環境に関する建築基準に

基づいてデザイン、建設するなど、環境に配慮した開発コンセプトを実践しています。

また、同子会社と米国における共同事業パートナーの1社であるNewland社は、日本における積水ハウスの持続可能なコミュニティ開発で実践している取り組みと、米国における既存のノウハウを取りまとめ、共同理念を制定しています。両社はこの共同理念を共同開発プロジェクトの具体的な開発計画に反映させることにより、豊かな自然環境を生かした持続可能なコミュニティ開発を進めています。



「Waterset (ウォーターセット)」(フロリダ州)



「Cinco Ranch (シンコ・ランチ)」(テキサス州)



「Tehaleh (テハレ)」(ワシントン州)

オーストラリア

SATOYAMAの思想を導入、コミュニティの活性化にも貢献



オーストラリアでは、シドニー、メルボルンエリアを中心に、マンション、住宅地、複合開発などの開発事業を進めています。

シドニー近郊のマンション開発「Wentworth Point (ウェントワースポイント)」においては、3棟で合計678戸のマンションを竣工、完売し、既に多くの方が暮らしています。

2009年の事業開始以来、当社の定める「まちづくり憲章」の理念に基づき、日本同様に持続可能なコミュニティの形成を目指してマンション開発を行っています。具体例としては、地下駐車場の屋根にあたる中庭に里山の思想を導入(SATOYAMA)。地域の自生種を中心に植栽し、近傍の国立自然公園などと緑のつながりを持たせることで、野鳥が訪れやすい環境づくりに配慮しています。また、コミュニティの活性化に欠かせないサークル

活動なども活発に行われており、現地子会社も年2回のコミュニティイベントに協賛。住民同士や当社従業員との交流が図れる場も設けています。

シドニー郊外の住宅地開発「Camden Hills (カムデンヒルズ)」では、2012年3月に販売を開始し、第1期販売区画79区画を完売したほか、続く第2～4期も順調に販売が進捗しています。第1期販売区画では多くの住宅を建設中で、既にお住まいの方々や周辺コミュニティの方々をお招きし、2013年3月には1周年を記念した初めてのコミュニティイベントを実施しました。競合の多い新興住宅地エリアの中で、当社の考えるサステナブルなまちづくり、既存樹を残し、歴史や地形を生かしたランドスケープデザインなどをご来場の方々に紹介し、高い評価を得ています。



「Wentworth Point (ウェントワースポイント)」



「Camden Hills (カムデンヒルズ)」(完成予想)

中国

現地の住環境を保持しながら 生態系に配慮したプロジェクトを進行



中国では瀋陽、蘇州、太倉、無錫を中心に、タウンハウス、マンション、商業施設等の開発事業を展開しています。2012年春には瀋陽工場が稼働し、各プロジェクトにおいても建設が本格的に進んでいます。

その中の一つ「裕沁湖畔庭（ゆうしんこはんてい）」は、中国3大湖の一つに数えられる太湖のほとりにおいて開発を進めています。

計画地がある無錫新区は、無錫市の南西部に位置し、市役所の新庁舎・オフィスビル・ホテル・住宅が建ち並び、利便性と自然環境にも恵まれた新都心です。計画地の

南側は太湖を望む親水公園、西側には有名な浄慧寺（じょうえじ）があり、北側には市内有数の進学校が開校しました。

本プロジェクトは開発面積約12.6haの計画地内にタウンハウス・低層メゾネット・マンション・商業施設を開発する大型複合プロジェクトです。周辺環境を取り入れた快適な住まいの創造を目指すとともに、外構計画においても生態系に配慮した樹種の選定や水辺を整備するなど、長期的な環境保全・維持にも寄与する計画としています。

2012年末に着工し、2013年秋から分譲を開始する予定です。



無錫市のプロジェクト「裕沁湖畔庭」（完成予想）

グローバルな視点で人材を育成。中国の施工技術力向上に貢献

住宅の品質を確保するためには、グローバルな視点で継続的に行う職方育成が欠かせません。当社は施工品質維持のため、現場に入る職方に対し、瀋陽工場敷地内に建設した研修校での研修を必須として、鉄骨や外壁工事などの知識を深め、施工技術の安定を図っています。

また、こうした現地での教育以外に「在日技能講習」制度を設けています。具体的には、中国人が日本の施工現場で労働しながら必要な技術を習得し、1～3年後に本国へ戻り、学んだ知識と技術を役立てるといったものです。

現在、日本では3人の中国人研修生が職方として働きながら、当社の施工方法を学んでいます。同様に、数週間～数カ月単位で行う「施工管理者（監督）現場実習」も継続的に実施しています。

これらの研修を通じて、職方・施工管理者が共に自国の現場で活躍し、良質な住宅を供給できる体制づくりを行っています。



積水ハウス独自の工業化住宅システム「βシステム構法」について学ぶ研修生

日本で学んだ知識を、帰国後仲間に教えたい

日本の方々は仕事熱心で責任感が強く、仕事中は仕事以外の話はあまりしません。どんな時も真面目で、次の工程へ移る時も、単に職長の指示を待つのではなく、できることは進んでやります。

中国では、何をすべきかを自覚し、指示されなくても行動することを「眼里有活」と言います。私はこの積極的な姿勢を学ぶ必要があると思っていますので、日本滞在の1年間は一生懸命勉強します。1分間も無駄にしません。帰国したら、日本で学んだ建築の知識と、日本人の仕事に対する姿勢を、仲間たちに教えたいと思います。



範志永さん

仕事をより多く覚えるために、日本語も勉強

どの現場でも、日本人は仕事ととても真面目で、常に自分がやるべきことに集中しています。私もそうなりたいと思い、日々努力しています。

今の私の目標は、日本で働いているこの1年間に、建方の仕事をすべて覚えることです。また、仕事以外の時間を有効に使い、日本語を習得することも課題です。仕事をより多く覚え、技術を高めるためにはその必要があると思うからです。

残り数カ月になりましたが、より一層努力して建方の勉強に努め、帰国して最高の技術で仕事をして、学んだ高度な技術を中国の仲間たちに伝えるつもりです。



李堤剛さん

シンガポール

持続可能な住環境の実現に向け、 当社の住まいづくり思想を新たな価値基準に



シンガポールでは、以前から進めてきた「Boathouse Residences (ポートハウス・レジデンス)」「Punggol Watertown (プンゴル・ウォータータウン)」「Hillsta (ヒルスタ)」の3プロジェクトに加え、新たに2012年から「Bedok eCO (ベドック エコ)」「Tampines QBay (タンピネス キューベイ)」の2プロジェクトに共同事業主の1社として参画しました。いずれも販売は好調で、当社ならではの住まい手目線の付加価値が、市場に浸透してきました。

その具体例として、「Bedok eCO」では持続可能な親自然型のコミュニティデザインに加え、当社の優れた設計力を体現したモデルルームを建設し、使い勝手や生活動線の良さを重視した空間を、実感しやすい形で提案しています。このように、現地の人々の暮らしや個々のライフスタイルに

合致した、効率的で使いやすいコンパクトな居住空間の提案は、新しい住宅コンセプトとして新聞記事で紹介されるなど、好評を博しています。

「Tampines QBay」では、日本の戸建住宅からヒントを得たキッチンまわりの有効活用や、マンションプロジェクトで取り入れたゲストハウスなど、多くのアイデアを盛り込んだ斬新さが評価され、好調な販売実績につながっています。

2010年の初プロジェクト着手から2年以上が経過し、JVパートナーとの良好な関係をより深めながら、日本で培ったものを着実にシンガポール市場に普及させています。今後も継続して、さらに良好な住環境を提供し、住まい手目線の新しい価値を現地の住文化に根付かせていきます。



「Tampines QBay (タンピネス キューベイ)」(完成予想)